

## 「2019 浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部・研究科1年 末田泉名

①学習成果：私は第二外国語がアラビア語で、中国語は谢谢，你好くらいしか知らなかった。会話教室には参加したが拼音の基本的な事柄がわかる程度の語学力しかなかった。しかし中国で二週間過ごすことでそれまで中々理解できなかった舌の位置や声調が感覚的に理解できるようになった。これには毎日中国語の音に触れていること、また最低限の言葉を覚えなければ生活できないという環境に置かれたことが大きいと思う。スプリングスクール 終了の翌日から台湾に滞在していたが、中国語での簡単なやりとりができるようになった上に、知らない単語が多いため正確に相手の言っていることを把握するのは難しいものの、大枠は理解できるようになっていた。また、今回のプログラムに参加して一番自分にとって大きかったのは中国という国や人々への認識が改まったことだ。と言ってもこのことは自分でもまだうまく言語化できない部分も多くある。中国への印象や感情は行く前と後とでは 180 度違って、今はまた中国を訪れたいと思っている。中国人のボランティアの方々が本当に素敵な人たちで、また会うだろうと思える友達になれたことも、中国への印象が肯定的なものになった理由の一つだと思う。しかしそれを除いて、私が実際に目にし体験したのは、渡航前に持っていた否定的なイメージそのままの中国だった。決して否定的なイメージが裏切られたわけではない。それでも私自身の感情はまるっきり違うのだ。たとえ想像していたものと同じものを目にしたとしても、実際にそれを見るのとそのイメージを抱いているだけなのとではこれほどまでに違うものなのか、と今は戸惑っていてもいる。

どんな国もそうだと思うが、中国という国をこれこれこういう所だと簡潔に言い表すことはできない。アリババの本社ビルを含む桁外れのビル群と判で押したようにそっくりな超集合住宅と菜の花の咲き誇る畑が同じ視野の中に捉えられる。私にはその光景が中国の姿を反映しているように思えた。そしてその光景を発展途上なのだ、とか人口が多いから、とかという言葉で結論づけてしまうのはあまりに惜しいことだと思う。次は中国に長期滞在できるプログラムに是非参加したい。

②海外での経験：物価の安さに驚いた。特に食費や交通費は日本に比べて破格の安さだ。しかし衣料品などはむしろ日本の方が安い場合もある。つまり毎日購入する、利用する必要のあるものの価格は安いということだ。また自分の意見をはっきりと主張しないと要望が通らないことがほとんどなので、はっきりと自分のしてほしいこととして欲しくないことを主張する癖がついた。もう一つ印象的だったのは、四肢の欠損のある人がそれを見せることでお金を求めている姿を目にしたことだ。ホームレスといった社会的弱者（私が見た人々がホームレスかはわからなかったが、少なくとも十分な収入も職もないようだった）がどのように社会の中に存在しているかは、国によってかなりの違いがある。中国で目にしたこの光景はかなり衝撃的なものだったが、この背景に何があるかは私にはわからない。彼らが病気のせいでそういった体になったのか、事故か、医療・社会福祉を受けられないのか、家族はいないのか。。。友人が以前言っていた、中国は多数派にいれば便利な生活が送れるが少数派になってしまった時は本当にしんどい所だという言葉が、また違う意味にも捉えられる。

③プログラム内容：今回全体で行なった活動は勉強ではなく観光だった。面白いものもあったが、どうせ中国にいるのならたまには違うこともやってみたかった。中国語の授業の老师はとても熱心で、内容も理解しやすかった。自由時間が割と多かったのはとても良かったその間に、中国で出会った様々な国の友人と色々な話をしたり自分で街の様子を見に行ったりできた。中国語の学習には申し分なかったが、それ以外の学問的刺激が希薄だったのが残念だ。

④進路への影響：前述したように、中国に今はとても興味を持っている。専門が美術史であることもあり、中国語の勉強と並行しながら中国の陶磁器についても学んでみたいと思っている。渡航前に中国で実体験に基づいた生きた知を獲得したいと志望動機書に書いたが、その目標は十分に達成できたようだ。